

# 岩手県感染症週報

平成27年第30週（7月20日～7月26日）

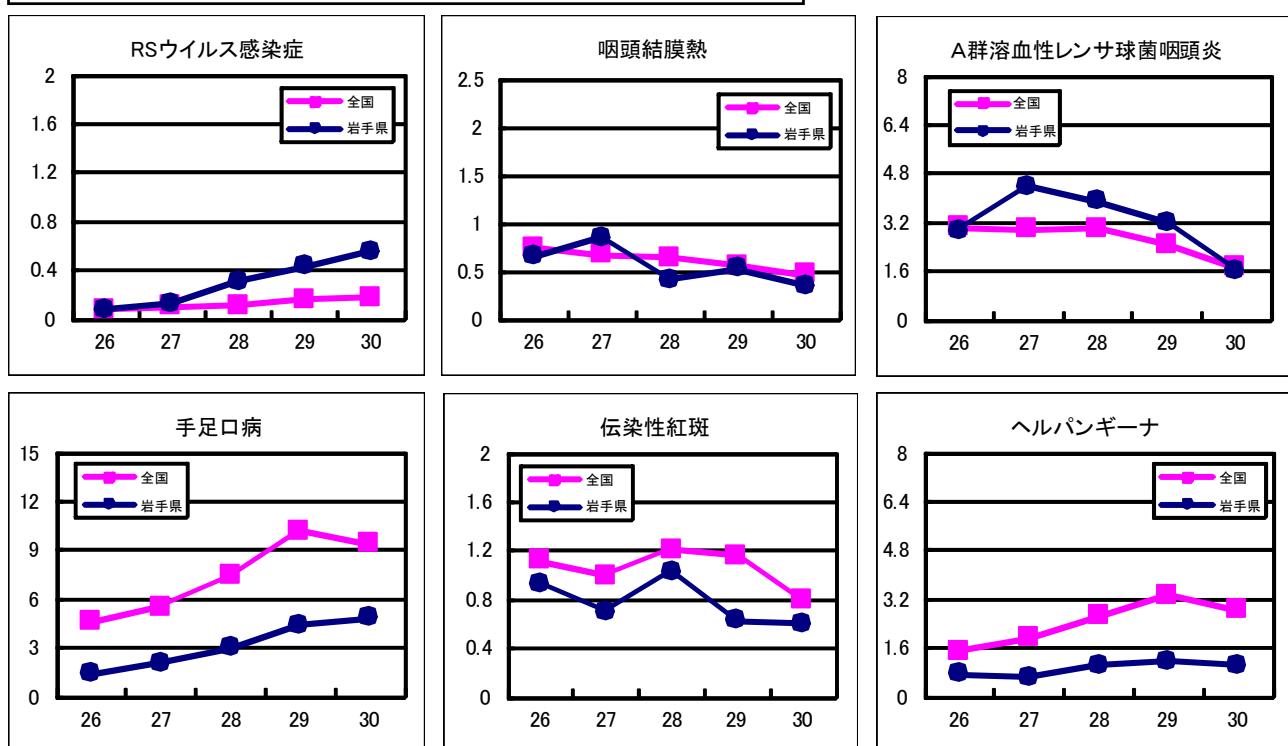
岩手県感染症情報センター

## 第30週の概要

- 1類感染症
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2類感染症
  - ・結核の報告が6例ありました。このうち潜在性結核は4例ありました。
- 3類感染症
  - ・腸管出血性大腸菌感染症は、2例報告があり、今年は計11例となりました。
- 4類感染症
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5類感染症（全数把握対象疾患）
  - ・アメーバ赤痢の報告が、盛岡市から2例ありました。
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が、盛岡市から1例ありました。
  - ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が、盛岡市から1例ありました。
- 5類感染症（定点把握対象疾患）
  - ・手足口病は、県央、一関、久慈および二戸地区で警報値（定点あたり患者数5人）を超えていました。年齢別では、この週は特に1～2歳が多く60%を占めています。本疾患は、口の中や手足などに水疱性の発疹が現れる、乳幼児を中心に流行するウイルス性疾患です。まれに髄膜炎を起こすことがあるので、頭痛や嘔吐がある場合には、小児科受診が必要です。
  - ・ヘルパンギーナは、先週と同程度の報告がありました。県央地区で多くなっています。
  - 手足口病やヘルパンギーナは、咳などによる飛沫感染のほかに便中にもウイルスが排出されるので、予防には、外出後、食事の前、トイレの後などに石けんと流水による手洗いを行うことが大切です。
  - ・RSウイルス感染症は、奥州地区で報告数が多くなっています。症状は、軽い風邪症状から重症の細気管支炎や肺炎等の下気道疾患まで様々あり、注意が必要です。この時期の報告数では、過去5年間でもっとも多くなっており、今後の発生動向に注意が必要です。

## 最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



## 定点把握対象疾患（過去5週の動き）

※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾病となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		26	27	28	29	30	
インフルエンザ	岩手県	0.12	0.06	0	0	0	→
	全国	0.11	0.1	0.09	0.1	0.08	
RSウイルス感染症	岩手県	0.08	0.13	0.31	0.43	0.55	↑
	全国	0.08	0.1	0.11	0.16	0.18	
咽頭結膜熱	岩手県	0.65	0.85	0.41	0.53	0.35	→
	全国	0.74	0.67	0.64	0.56	0.46	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.95	4.38	3.87	3.2	1.63	↓
	全国	3.03	2.97	2.99	2.48	1.73	
感染性胃腸炎	岩手県	5.05	4.45	4.77	3.95	2.85	↓
	全国	5.8	5.28	5.08	4.4	3.42	
水痘	岩手県	0.58	0.35	0.38	0.13	0.3	→
	全国	0.45	0.4	0.42	0.42	0.34	
手足口病	岩手県	1.4	2.08	3	4.38	4.85	↑
	全国	4.56	5.48	7.39	10.16	9.38	☆☆☆
伝染性紅斑	岩手県	0.93	0.7	1.03	0.63	0.6	→
	全国	1.12	1	1.21	1.16	0.79	
突発性発疹	岩手県	0.45	0.6	0.59	0.58	0.53	→
	全国	0.68	0.61	0.62	0.59	0.55	
百日咳	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.73	0.63	1.03	1.18	1.03	→
	全国	1.49	1.92	2.65	3.34	2.82	
流行性耳下腺炎	岩手県	0.2	0.1	0.21	0.15	0.13	→
	全国	0.56	0.55	0.58	0.56	0.52	
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0.07	0.07	→
	全国	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.5	0.43	0.64	0.79	→
	全国	0.77	0.84	0.71	0.75	0.84	
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0.05	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.02	0.03	
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.03	0.03	0.05	0.06	0.08	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.37	0.21	0.21	0.26	0.26	→
	全国	0.26	0.3	0.25	0.35	0.33	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0	0	0	0	0	→
	全国	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.11	0	0.05	0	0	→
	全国	0.08	0.05	0.04	0.05	0.02	
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	2	1	0	0	0	
	全国	12	11	4	8	7	

## 【流行傾向の見方】

無印：ほとんど患者が発生していません

☆：患者が発生しています

☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります

☆☆☆：多くの地区で警報値を超えていません

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)							※中東呼吸器症候群 (M E R S) 及び鳥インフルエンザ (H 7 N 9) が2015年1月21日より二類感染症に追加されました。		
	疾病名	岩手県						全国	
		(週) 26	27	28	29	30	累計	30	累計
一類感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類感染症	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	4 (3)	6 (4)	5 (2)	5 (0)	6 (4)	137 (58)	290	13523
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (M E R S)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H 5 N 1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H 7 N 9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類感染症	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	3	85
	腸管出血性大腸菌感染症	3	0	0	0	2	11	97	1569
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	21
	バラチフス	0	0	0	0	0	0	1	23
	E型肝炎	0	1	0	0	0	3	5	114
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
四類感染症	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	4	161
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	8
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	キヤサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
五類感染症	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (S F T S)	0	0	0	0	0	0	0	30
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
六類感染症	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	11
	つつが虫病	0	0	0	0	0	4	0	71
	デング熱	0	0	0	0	0	0	3	135
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H 5 N 1, H 7 N 9 を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
七類感染症	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	3	85
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	4
八類感染症	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	21
	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	1
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	3
九類感染症	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	1	0	14	44	813
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	6
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0

## 全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

(患者発生数)

※カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例）、播種性クリプトコックス症、薬剤耐性アシネットバクター感染症が2014年第38週より報告されることになりました。

分類	疾病名	(週)		岩手県			全国		
		26	27	28	29	30	累計	30	
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	2	4	10	623
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）	0	1	0	0	0	1	0	137
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	1	1	16	769
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	1	0	0	0	0	2	6	302
	クリプトスボリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	1	0	99
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	1	2	4	262
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	12	791
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	40
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	7	147
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	19
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	13	13	1465
	水痘（入院例）	0	0	0	0	0	3	2	183
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	20	1289
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	68
	破傷風	0	0	0	0	0	1	1	54
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	34
	風しん	0	0	0	0	0	1	4	109
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	26
	薬剤耐性アシネットバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	19

## 今注目の感染症

## ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、発熱、口腔粘膜に現れる水疱性の発疹を特徴とした、乳幼児を中心に夏に流行する急性ウイルス性感染症です。いわゆる夏かぜの代表的疾患です。

今シーズンの岩手県の発生状況ですが、第27週から2週続けて増加し、第30週にはやや減少しました。年によって流行の大きさは違いますが、例年、夏から9月上旬まで報告数の多い状況が続くので、今後の発生動向に注意が必要です。

参考 国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

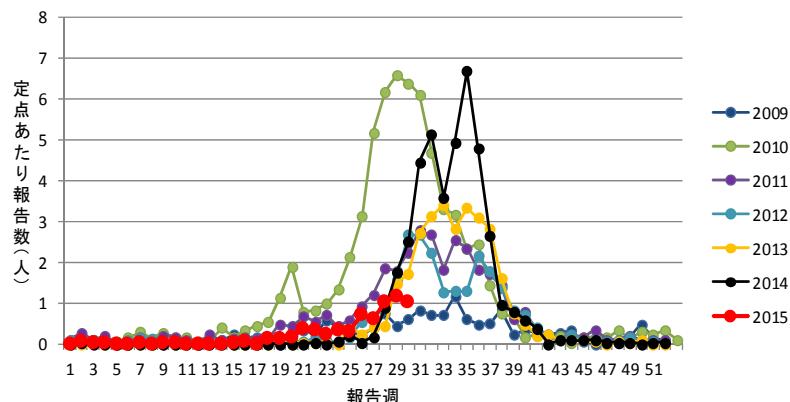
ヘルパンギーナ 岩手県  
2009-2015年第30週

図1 ヘルパンギーナ 岩手県の年別流行状況

## 今注目の感染症 (つづき)

## 手足口病

手足口病は、口の中や手足に現れる発疹を主症状とした急性ウイルス性疾患です。乳幼児を中心に主に夏に流行する疾患です。3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひらや足などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、臀部などにも出現することがあります。

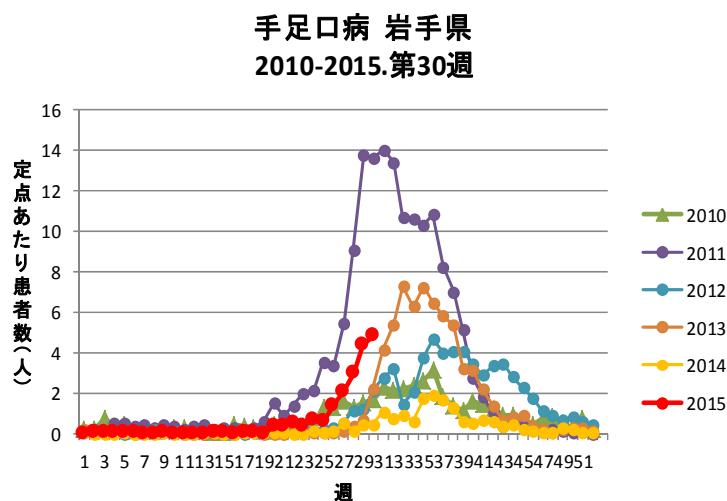
基本的には、数日で回復する予後良好な疾患ですが、まれに髄膜炎や脳炎を併発することがあるので、頭痛や嘔吐がある場合は小児科受診が必要です。

病原ウイルスは、主にコクサッキーA16 (CA16)、CA6、エンテロウイルス71 (EV71)などのエンテロウイルスですが、他のエンテロウイルスによっても発症します。環境保健研究センターで実施しているウイルス検査ではCA6が検出されています。

手足口病及びヘルパンギーナは、咳等の飛沫感染のほかに、便中にもウイルスが排出されるため、予防には手洗いの徹底が重要です。

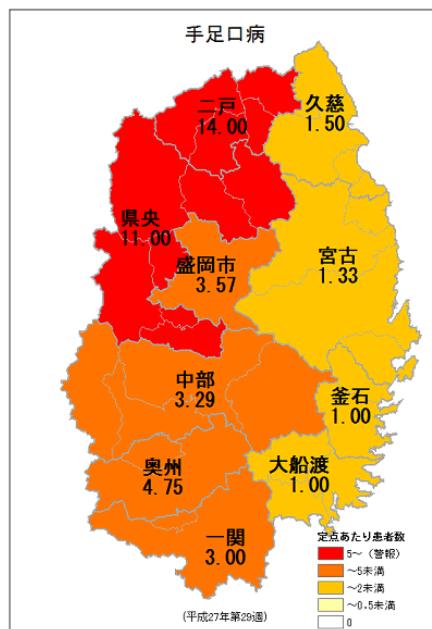
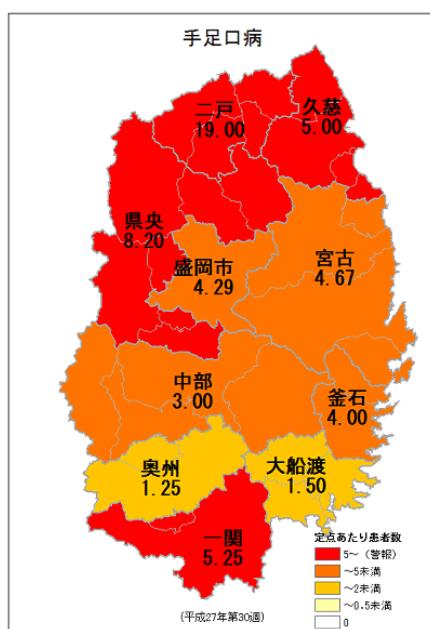
参考 感染症研究所 手足口病とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/441-hfmd.html>



岩手県の発生状況ですが、6月下旬から増加が続いています。第30週は、県央、一関久慈および二戸地区で警報値（定点あたり患者数5人）を超えてています。

ほとんどの地区で患者数が増加しており、流行の拡大に注意が必要です。



第30週

第29週

## 今注目の感染症 (つづき)

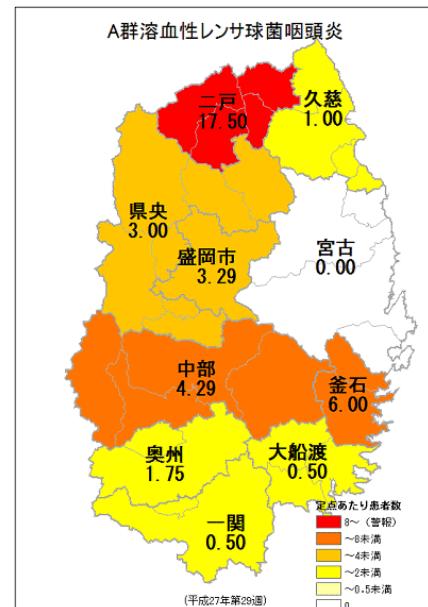
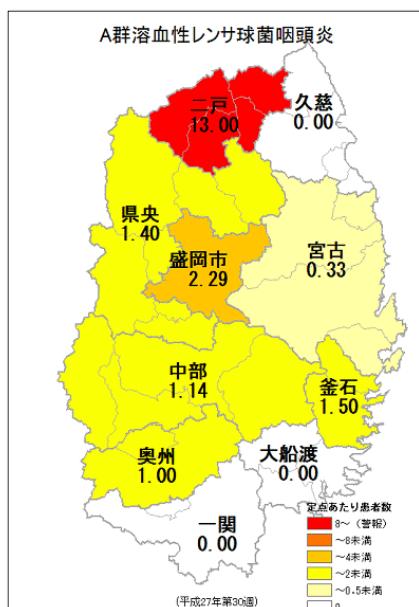
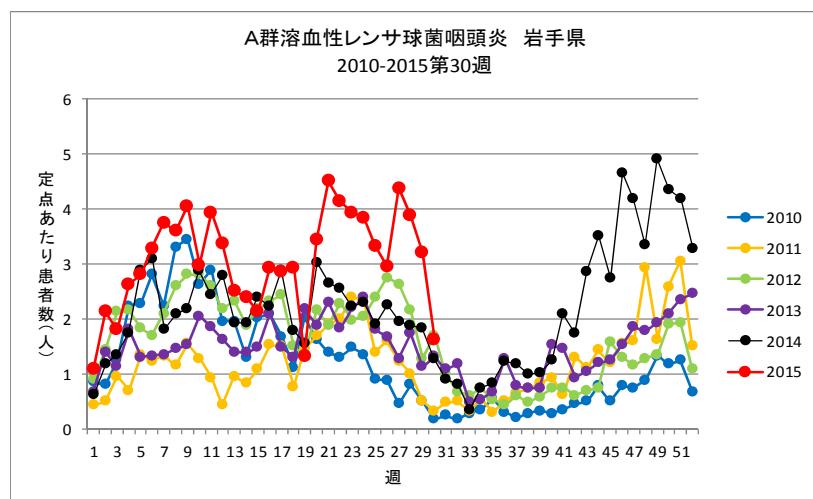
## A群溶血性レンサ球菌 (溶連菌) 咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎です。潜伏期間は2～5日で、突然の発熱、咽頭炎、全身倦怠感によって発症し、体幹に発疹を伴うことがあります。感染後急性腎炎を併発することがあるので、7～10日間の抗菌剤内服が重要です。予後良好の疾患ですが、菌が産生する毒素に免疫がない場合には猩紅熱に発展する場合があります。

感染経路は、ヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれており、昨年盛岡市で食中毒事件が1件発生しました。

予防には、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがいや手洗いなどの励行、マスクを用いた咳エチケットも重要です。

岩手県での発生状況ですが、例年、冬と、春から初夏にかけて2つのピークがあります。2015年は第21週（5月中旬）に急増し、その後減少が続いておりましたが、第27週に再び急増しました。第28週は減少しましたが、例年に比べて患者報告が多くなっています。また、二戸地区で8週連続して警報値（定点あたり患者数8人）を超えていました。今後とも注意が必要です。



第30週

第29週

## 今注目の感染症 (つづき)

## レジオネラ症

レジオネラ症は、細胞内寄生性のレジオネラ属菌による感染症です。菌は経気道感染して、肺胞マクロファージに侵入し増殖します。病系には肺炎型と感冒様のポンティアック熱型があります。レジオネラ肺炎は、他の細菌性の肺炎との区別が困難で、適切な抗菌薬の投与がない場合、急速に全症状が悪化する例があるので注意が必要です。治療には、キノロン系やマクロライド系の抗菌薬が有効です。

この菌は土壤や水環境に普通に存在する菌で、この菌に暴露されても発症することはまれですが、高齢者や新生児、免疫力低下をきたす疾患を有する方はリスクが高く、注意が必要です。なお、人から人への感染はありません。

岩手県では2006年から2015年7月26日までに、111例の報告がありました。うち99例が男性でした。また、年齢層別では、30歳未満には少なく、60歳代が最も多く報告されています。

医師から届出のあった推定感染源は温泉・入浴施設が49%を、ついで不明36%が占めています。

参考 国立感染症研究所 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ra/legionella.html>

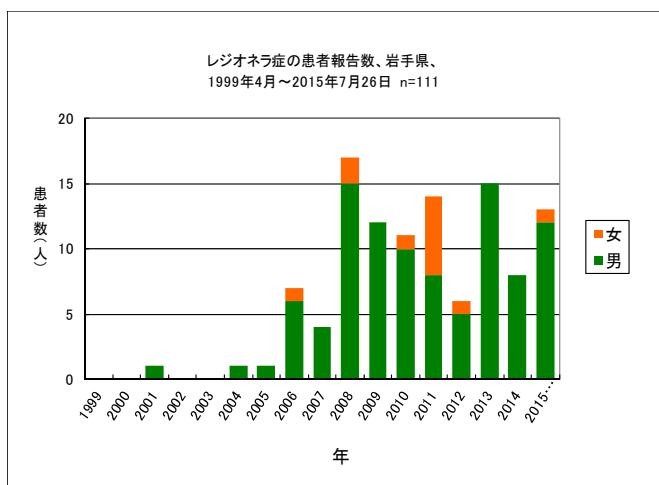
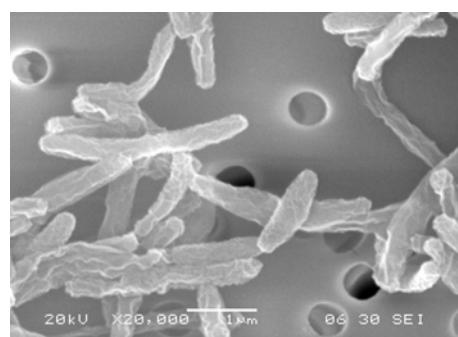


図1 年別患者報告数、岩手県  
1999年4月～2015年7月26日 n=111



レジオネラ属菌の走査電子顕微鏡写真

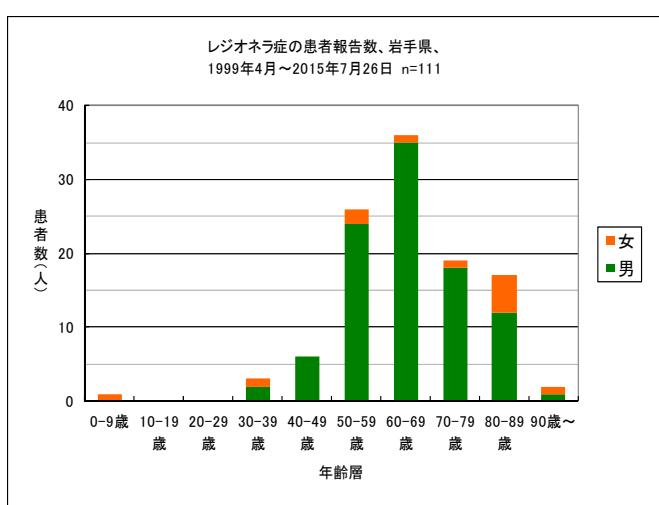


図2 年齢別患者報告数 岩手県  
1999年4月～2015年7月26日 n=111

レジオネラ症の推定感染源、岩手県  
1999年4月～2015年7月、n=111  
医師からの届出票の記載内容を集計

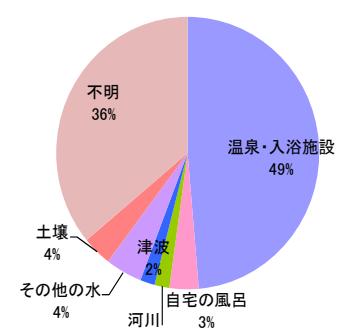


図3 レジオネラ症の推定感染源、岩手県  
1999年4月～2015年7月、n=111  
医師からの届出票の記載内容を集計

## 病原体検出情報

- この週には病原体検出情報はありません。

## 集団感染情報

### ○感染性胃腸炎の集団発生について

北上市の小学校

- 7月15日（水）から7月21日（火）にかけて、児童16人に症状（嘔、下痢等）
- 有症者4人中3人からノロウイルスを確認

## 医療機関からの情報

- この週には医療機関からの情報はありません。

## Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

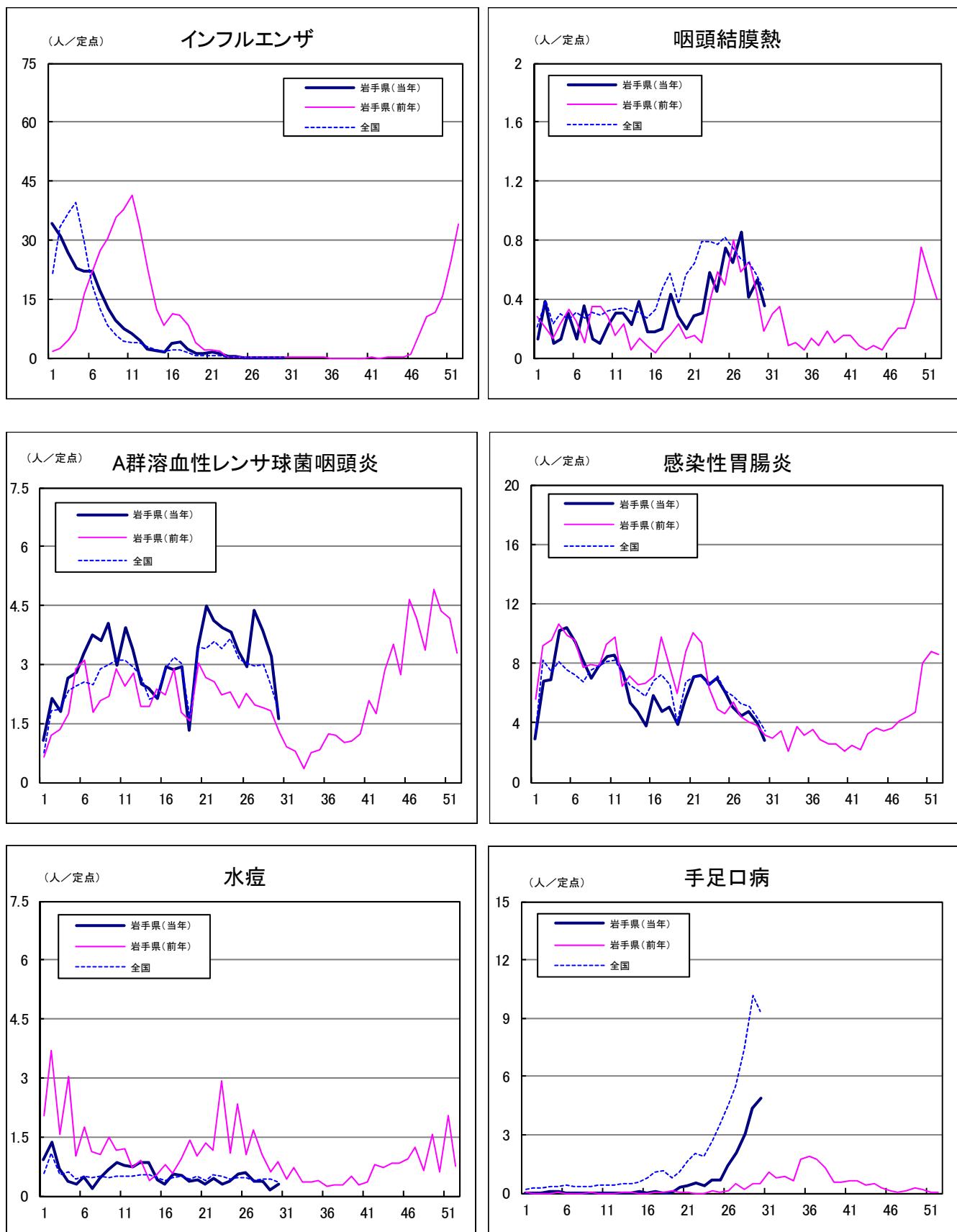
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

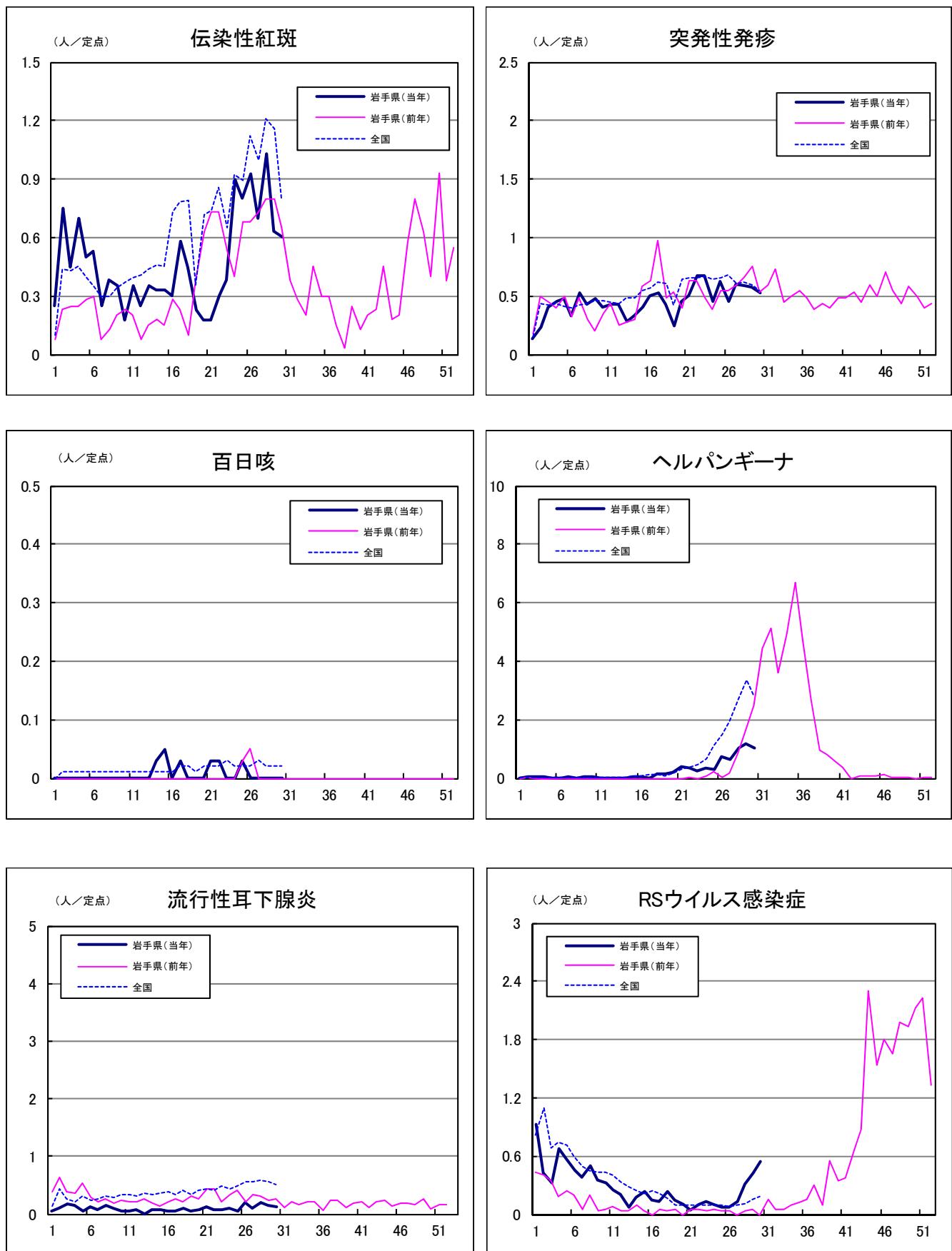
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

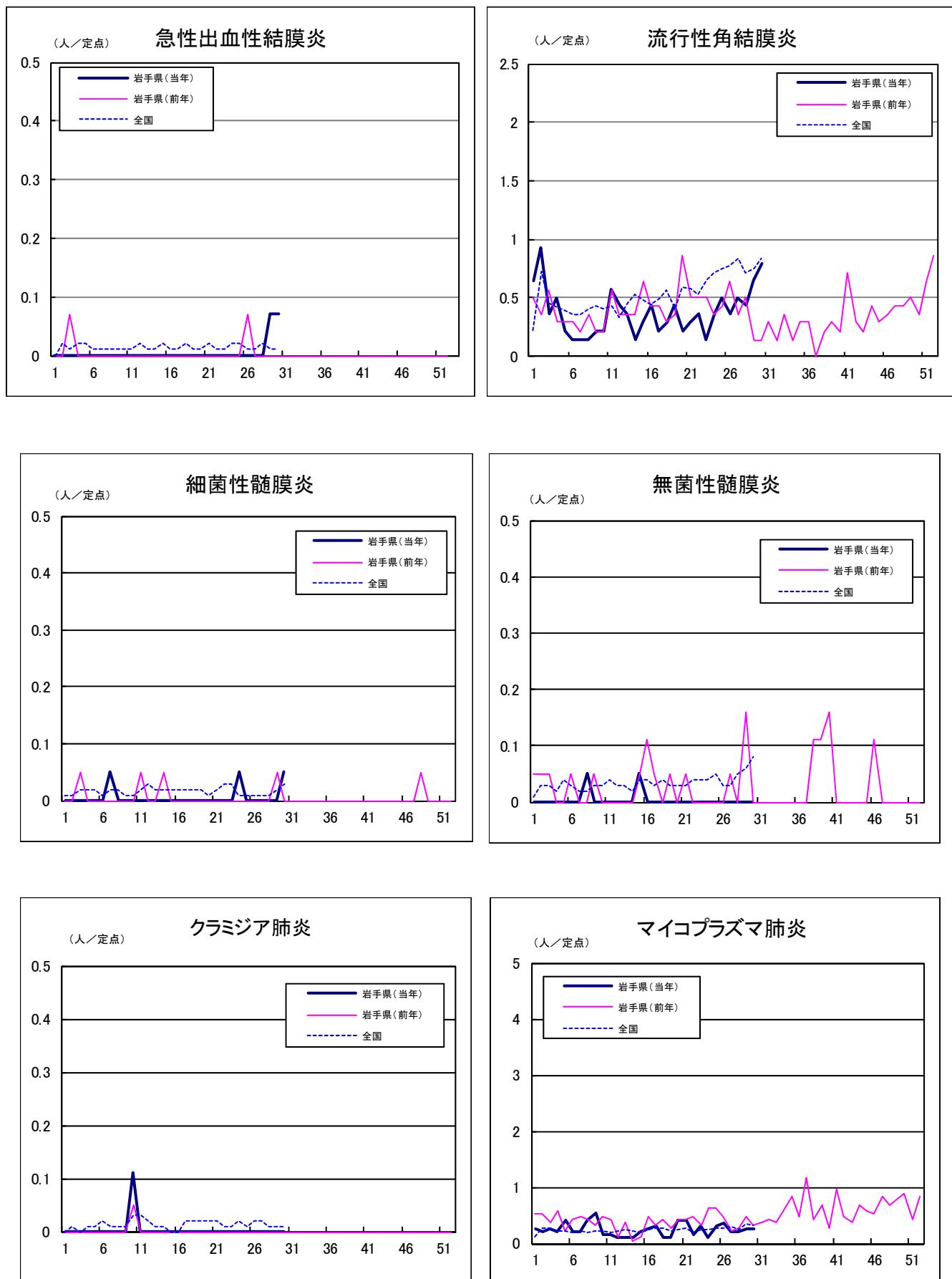
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

## 疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







## 定点医療機関の数

地区\定点種別	インフルエンザ	小児科定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	65	40	14	19
盛岡市	11	7	3	5
県央	8	5	2	0
中部	12	7	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	6	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



8

無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成27年第30週 平成27年7月31日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryou/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>